

# 一可光陰不可軽

## 人国記

3代目「ロードスター」で日本カーオブザイヤーを。この合言葉のもと、モデルチェンジに向けた開発の大きなテーマは、やはり「軽量化」でした。市場からのサイズ拡大要請や厳しくなる衝突安全基準への対応など、クルマが大きくなる要求ばかりですが、そのまま肥大化させたのでは、「ロードスター」の魅力が消えてしまう。このクルマのモデルチェンジに必要なのは常に「変えないために変える」視点です。

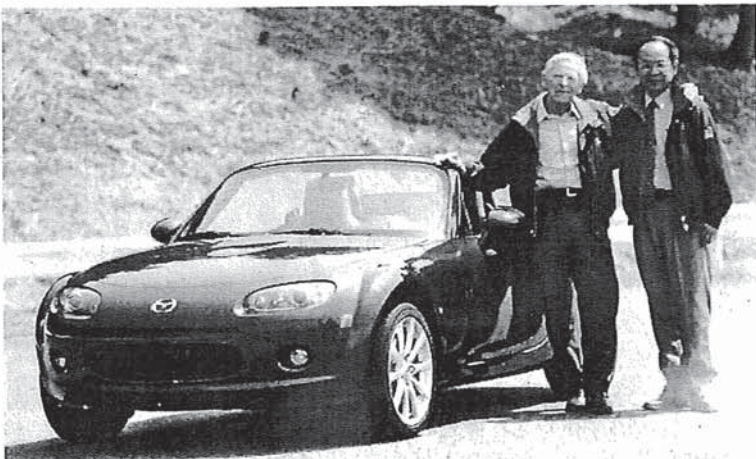
きじま たかお  
**貴島 孝雄 (62)** ②

### 元マツダロードスター主査

を20%、曲げ強度も40%アップさせつつ、薄く軽くなったんです。

しかし、平成16年9月、完成目前の最終仕上げのために役員らとイギリスへ出張する前夜、自宅で吐き気や目まに襲われました。診断はメニエール病。大事な時でしたが、出張をあきらめ、1カ月半ほど自宅療養したんです。

「リラックスしてください」といわれ、マッサージュチェアを買ってみたが効果なし。仕事をしていたほうが落ち着くようで、12月には東京へ出張することもできました。ただ、平衡感覚は壊れてしまったみたいですが、それも慣れましたね。そして17年3月のジュネーブモーターショーで、満を持して



3代目「ロードスター」に試乗したポール・フレール氏(左)と貴島さん

3代目「ロードスター」のデビューにこぎつけたんです。一番うれしかったのは、自動車評論家「ポール・フレール氏」が、このクルマに試乗した印象を「何と鮮やかなことか」と自動車雑誌に書いて下さったこと。ジュネーブショーのあと、師と仰ぐポールさんから「キシマのロードスターに乗りに行きたい」と言ってくれただけでも感激だったんですが、来日してわざわざ三次自動車試験場(広島県三次市)に来て下さり、最高の誉め言葉をいただいた。「やり遂げた仕事に間違いはなかった」と確信できました。

そして、目標に掲げたとおり、この年の日本カーオブザイヤーを獲得。マツダにとっ

ては3台目、私自身も第1回の「ファミリア」以来の栄冠でした。初代「ロードスター」も受賞にふさわしいクルマだったと思います。が、その年はトヨタ「セルシオ」に及びませんでした。しかし、今回はトヨタ「レクサスGS」を破っての受賞。不思議な巡り合わせでした。

# 何より感激、師の賛辞



## 九州・山口

産経新聞九州山口版は月々購読料3000円の朝刊紙です。九州山口地域でもご自宅や会社に配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は  
**九州総局**

TEL 092(741)7088  
FAX 092(726)2572  
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004  
福岡市中央区渡辺通  
5-23-8  
サンライトビル3階

### 山口支局

TEL 083(923)3333  
FAX 083(923)3334  
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074  
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは

☎ 0120(34)3733  
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは  
TEL 092(741)2323

広告のご用は  
TEL 06(6633)9474